

お客様に喜んでいただく

春です。色んなことが始まりを迎える季節です。

重いコートを脱いで歩きませんか♪と新型コロナウイルスを脱ぎ取りたい今の状況です。そんな中、彩花スタッフは今年も退去清掃を一致団結で難なくこなし、早く終わらせることができ、業者さんからお礼のお電話を頂くことができました。便利さと時間の短縮が出来て幸せを感じることも多くありますが、知恵を働かせて身体を動かす。まさに彩花の仕事はこれにピッタリです。きれいに仕上がった達成感を味わいお客様に喜んで頂く、何か毎日が楽しくなる、そんな気持ちで彩花は25期を迎えたいと思います。



こんな時期だからこそ訪問を

彩花新聞を発行して14年近く、今月で166号になります。毎月、お客様を訪問して手渡しで130枚くらい配布しています。コロナ渦で訪問する会社の足が止まっている中、毎月休むことなく配布し、それによってお客様の心を繋ぐ一つのツールになっているようです。色々な会社が、営業訪問を控えていてZoomやメールでやり取りしている状況です。しかし、会話をしなくても受付や窓口の方に彩花新聞を届けることが身近な関係づくりのお役にたっていると思います。先日、お客様から嬉しいお声を頂きました。

「良いことが書いてあり、毎月楽しみにしています」「こんな時期だから、すごく心の癒やしになっている」とお礼のお言葉です。このことを通じて思うのですが、こんな悪環境の中でもみんな仕事をして行かなくてはいけません。新聞をツールに訪問して、顔を合わせるのが一番とつくづく思いました。時代が進みインターネットなど進むのは良いのですが、それを口実に人と人とのやりとりから逃げているような、更にコロナ渦で逃げが加速しているのではと感じます。しかし、SNSやZoomなど、ネット時代に合わせた対応をしていくことは大事なことです。訪問することで、コロナに負けない仕事はここにあるのではないかと・・・まだまだ、コロナの終息は見えません。

コロナに負けず、これからも心を癒やす話題を見つけに訪問を続けたいと思います。



家事手伝い

家事手伝いの清掃で、毎週1回午前中に2時間清掃に入らせて頂いているお客様がいます。お付き合いさせて頂いて4年目です。とても仲睦まじく、羨ましい年配のご夫婦です。女性2名でお掃除に入りますが、我社の7名の女性のスタッフが、入れ替わり訪問しています。その女性スタッフ全員の名前を覚えてあるのにはビックリです。

9:00~11:00までが作業時間になっているのですが、毎回10:30~11:00までお茶タイムの時間になっているようです。行くたびに飲み物やおやつを色々と考えて工夫して頂きスタッフの好みも把握されて、とても気を使って頂いています。また、今までの人生経験をお話されて、スタッフもとても勉強になっているようです。このようなお客様とお付き合いできて本当に嬉しく思います。いつまでもご夫婦仲良く長生きしてください。いつも本当にありがとうございます。感謝 感謝



10円の報告

先日、10円を拾った子供の話ですが、結果をその子供に報告しないといけないと思っていて、通学中にその女の子に会いました。「先日は10円を届けてくれてありがとう」と言うのですがすぐには分からず、あ然としているので違ったかなと・・・10円だから本人も忘れていたのかと、思い出してくれました。「あの拾った10円は、神社のお賽銭箱に入れたからね」と報告して彩花新聞にも掲載していたので家の人にも見せてねと渡しました。そうすると、嬉しそうに顔して学校に走っていきました。

そして、朝、いつも自転車で見回りをしている校長先生にお会いしたので彩花新聞を渡して「素晴らしい生徒さんには感動しました」と報告したところ、校長先生にも喜んで頂いたようです。たった10円拾ったという出来事で、色々な繋がりが出来て心豊かな話題となりました。

これからも「お客さま訪問」「従業員の出来事」など心豊かになるお話を彩花新聞に掲載して喜びを共有して行きたいと思っております。皆様の情報もお待ちしております。



思いが人類を進歩させてきた

「思い」には我々の人間性、人柄、人格を形成していくという面と我々の境遇、周囲の環境をつくり出していくという面の二つの側面があるわけですが、さらに「思い」が持つ偉大な力を端的に示しているのが、現在の文明社会のなり立ちです。今から約二百五十年前にイギリスで起こった産業革命を機に、人類は近代化な文明社会を築いていきました。



それは、人類の「思い」から生まれたものです。

もともと人類は、木の実を拾い、魚を獲り、獣を捕まえるの生活を行い、自然と共生していました。しかし、いまから1万年前に、人類は自分たちで生産手段を持ち、穀物を栽培し、家畜を養って食べるという、農耕牧畜の時代と移って行きました。狩猟採集の時代には自分達の意味で生きていくことはできませんでした。

それが農耕牧畜によって掟から離れ、自分達の意味で生けるようになったのです。そして、およそ二百五十年前に産業革命が起こりました。人類は蒸気機関を手に入れ、工業で多くの機械を使い、様々な製品を生産すようになりました。

それからというもの、次から次へと発明・発見を行い、科学技術が著しく進歩し、今日の素晴らしい文明社会が作られて行きました。悠久の歴史の中で、僅か二百五十年という短い時間に、人類は豊かな文明社会を築き上げたのです。

なぜ、これほどまでに科学技術が発達してきたのでしょうか。それは取りも直さず、人間が本来持っている「思い」というものが元になっています。人は誰でも、「こうしたい」「こうしたいものが可能ならば」「もしこういうことが可能ならば」という「思い」が心に浮かんできます。

例えば、いままで歩いたり、走ったりしていたところを「もっと速く、便利に移動する方法はないのだろうか」と思い、そこから「新しい乗り物が欲しい」という夢のような「思い」を抱くようになります。

そして、その夢のような「思い」が強い動機となって、人間は実際に新しいものをつくっていきます。何度も失敗を繰り返しながら、新しい乗り物を作り出していくのです。

そのようにして、ある人は自転車というものを考案しました。

ある人は自動車を発明し、またある人は飛行機つくりました。

そういう具体的なものを発明し作って行く際には、頭で考え、研究しなければなりません、その発端となるのは、心の中にフッと湧いた「思いつき」です。

一般には、よく「そんな思いつきで、ものを言うな」と言われるように、「思いつき」こそが非常に大事なのです。人の心に浮かんだ様々な「思いつき」が発明・発見の原動力となり、今日の科学技術を生み出したのです。

このように「思う」ということは物事の出発点となります。人間の行動は、まず心に「思う」ことから始まるわけです。この「思う」ということがなければ、人間は何も行動を起こすことができません。多くの人「思う」ことを簡単なことだと捉え、軽んじていますが、「思う」ことほど大事なものは他にありません。

